

英語は国際社会を生き抜く手段



国際化の時代を迎え、初等教育の現場では公用語としての英語の重要性がますます高まっている。すでに一部の小学校では英会話教育を導入され、全国的に2002年春から小学3年

以上を対象に始まる「総合的な学習の時間」では、英会話を選択する学校も増える見通しだ。しかし、教科としての導入には依然として慎重論も強い。これに対し、金沢市の小学校で非常勤講師を務める英語塾経営、清水恭宏さん(32)「同じ市藤江南1」は「真の国際人を育てるには英語を国際社会で生き抜く手段と位置づけ、カリキュラムを導入すべき」と唱えている。

【田中 義宏】

—小学校での現状の英語教育で課題や問題と思うことは。

清水さん 今の英語教育は国際理解の一環という位置付けです。これは一つに

るそうです。「きつ」と辞める先生もいるなどの問題は聞いていますが、少なくとも多くの先生は熱心で目標がしっかりしています。ある人に言わせると



英語教育改革を唱える塾経営者

清水恭宏さん(32)

しみず・やすひろ 金沢市出身。立命館大在学中、英国に留学。福祉に興味があり卒業後、再び英国に渡り、知的障害者の施設で半ばボランティアとして1年間働いた。この経験で語学力を身に付け、帰国後、英語塾講師を3年間勤めた。3年前、29歳で英会話塾「エスチーム」を開業。現在、金沢市の英語活動指導協力員として同市立千坂小、同中央小で各月1回、同中央小芳斎分校で1学期に1回指導している。

は教科として本格導入すると教育現場で大変なショック・アスレギ―を起すため、あくまで異文化理解という「建前」を置いているのでしょう。しかしそこには子供たちが10年後、英語を使えなかったらどうするかといった危機感、長期的なビジョン、哲学に欠けています。

例えば隣の韓国では英語を「手段」として徹底的に教育を進めている。小学校の教師に年間100回時間という英語の研修をさせ

英語教育の面で日本は韓国に20年遅れているそうです。

—どうしたらいいと思いますか。

清水さん 日本では小学校の先生にはまだ教える十分なスキル(技術)がない。そこでまずは日本人英語教

れがあります。

また、読み書き英語中心への反動だと思いますが、アルファベットを教えずに、音だけで教えるほうがいいという声も上がっていますが、これも間違っているのではないのでしょうか。中学校でも、かたての文法偏重く

です。

—民間の英語教育としては目指すところは。

清水さん 英会話塾としてはこれまでエスチーム業界のように、英語が米・英国人のように話せない日本人のコンプレックスの上に成り立ってしま

語を使うことが重要でしょう。

人数は限られています。英語教育の防波堤になり、一人でも多く、国際舞台でも活躍できる人材を育てたいですね。

小学校に教科で導入を

こんな人

13歳から始めたクラシックギターの腕前はなかなかで「中学卒業後、最初は普通高校ではなく、ギターの専門学校に通ったものでした。クラシックからポップス、ボサノバなど幅広いジャンルをこなす。趣味が高じて、時給50万円の愛用ギターを片手に金沢市片町の行き付けの酒場へ。常連客の顔ぶれに合わせ、マウヤ・キャリー、タイ

専門学校に通ったものでした。クラシックからポップス、ボサノバなど幅広いジャンルをこなす。趣味が高じて、時給50万円の愛用ギターを片手に金沢市片町の行き付けの酒場へ。常連客の顔ぶれに合わせ、マウヤ・キャリー、タイ

アナ・ロスのヒットナンバーのアレンジ曲を奏でる。これまで本格的なライブを回開催。「好きな曲を好きな表現で演奏し、感動を呼ぶのは最高です。機会があればいつでも」と音楽家の顔。

の反動で、文法用語を極力避けるよう指導しています。が、その結果、フィリピン英語に偏り、基本的な文法を知らない生徒が増えています。

日本人は日常的に英語に触れる民族とは違います。欧米人の赤ちゃんみたいに英語を勉強できるはずはなく、文法は手段としての技を養うには欠かせないもの

た。しかし、劣等感を持っているには本当に上手になるとは思えません。

国際社会は今後、英語圏以外の国の人がどうして英語でコミュニケーションをとる機会が圧倒的に多くなります。英語をちゃんと学んだからといってネイティブになれるわけではなく、むしろ日本人としてのアイデンティティを失わずに英